

地球科学輻合ゼミナール

(2008年度 後期 第4回)のご案内

次の南海トラフ巨大地震は？：東海・東南海・南海地震の連動性
評価研究

平原和朗

(地球物理学教室、京都大学理学研究科)

講演者と講演内容の紹介：

これまで、今世紀前半に発生が危惧されている南海トラフ巨大地震のシミュレーション研究について報告してきた。今年度から5カ年計画で、「東海・東南海・南海地震の連動性評価研究プロジェクト」が始まる。そこで、もう一度、このプロジェクトの紹介を軸に、南海トラフ巨大地震とは？、一体どのようにして地震発生予測に迫ろうと考えているのか、現状と問題点について、考えてみたい。

中央防災会議によると、東海・東南海・南海地震の同時発生(連動)による最大被害想定は、死者2万5千人、経済的被害81兆円との予測がなされている。このまま手を打たなければ、経済的に「日本沈没」は起こりうる。また、この巨大地震発生数十年前から1995年兵庫県南部地震に象徴されるように、西南日本の内陸大地震の活動が活発化するとされている。内陸活断層上に位置する京都大学キャンパスに暮らす我々にはむしろ、この足元の内陸地震発生の方が気がかりとも言える。

このように、甚大な被害をもたらす巨大地震であるゆえに、その予測研究はともすればその社会的側面が強調されることが多い。しかしながら、近い将来(おそらく30年以内)に、その発生場所・規模がある程度分かっているこの巨大地震の発生予測は、予測科学としてチャレンジすべき第一級の科学的問題であることを強調しておきたい。

10月29日(水) 午後4:30～午後6:00

場所：理学研究科6号館 201号室